

神戸のディテール

Detail of KOBE
石阪 春生
写真 / 杉尾友士郎

34





ホワイトとブルー
粹な組み合せ
ライフスタイルを
つくるスキヤで

婦人服飾とおしゃれ小物
スキヤ

本店 / トアロード / 078(331)3436

事務センター / 葦原区琴緒町 / 078(241)2291.2

六甲店 / 阪急六甲ファミリーストア内 / 078(871)2733

池袋店 / 池袋バルコB1 / 03(987)0567

梅田店 / 阪急三番街B1 / 06(372)4877

宝塚店 / 阪急宝塚南口駅構内 / 0797(71)5033

阪急神戸店 / 阪急百貨店1階 / 078(321)3521

心斎橋店 / 心斎橋バルコ3階 / 06(245)1316

芦屋川店 / 阪急芦屋川ファミリーストア / 0797(31)8193

宇都宮店 / 西武百貨店1階 / 0286(35)0111

渋谷店 / 渋谷バルコ新館3階 / 03(476)1650



写真提供 /

WORLD CO. LTD.



76春夏 フラミンゴ 素材作品より

コウベレディのための
オリジナルハイファッション
春の風のように
やさしくゆれて…

パリの服飾大使館

Soed 装苑

装苑大丸前店
三宮町3丁目45/331-7550

装苑センタープラザ店
三宮センタープラザ/331-2038

ブレタ工場
瀬区将軍通3-4-24/881-0907



どこまで素敵になるつもり。

大理石のフロアに繰りなす気品ある華やぎ、
洗練された美しさへのたえまない憧れを
ニット・ファッショ・ワールドのコレクションに託して
三宮の新しい印象——「リザ」
いまときめきの中でうわさのサロン。

三宮センターブラザ3階



取扱い商品ご案内 ★ボーシャル・ルイザ ディ グレージー・ワールドコーディネートは
ニット・ファッショ・ワールドのブランドです。

poushal (ボーシャル)

ミラノのしゃれた香り、気品あるぜいたくさをシンプルなデザインに
編みこんだ、完成された大人らしさ。粹で小気味よいコーディネート。

Liza di Grey (ルイザ ディ グレージー)

さっそうと街をゆくあなた、そのフェミニンなプリントが広がって
ゆくみたい。イタリー感覚のみごとな配色が、若さと甘さをほどよ
くみせて。

WORLD COORDINATE (ワールドコーディネート)

優しく暖かみのある自然のトーン。ムダをはぶいたシャープなシル
エット。スポーティ&エレガントで描く組み合わせニットの妙。本
格派のためのトータル・スタイリング・コーディネート。

Liza SALON

神戸 / センターブラザ (3階) ☎ 078(391)6808

神戸 / 大丸神戸店 (2階) ☎ 078(331)8121

神戸 / そごう神戸店 (3階) ☎ 078(221)4181

大阪 / そごう心斎橋店 (1階) ☎ 06(271)2221

大阪 / 梅田地下センター かわい ☎ 06(312)4092

岡山 / そごう岡山店 (2階) ☎ 0862(33)1231

広島 / そごう広島店 (4階) ☎ 0822(25)2111

広島 / 福屋 (3階) ☎ 0822(47)6111

名古屋 / 松坂屋本店 (3階) ☎ 052(251)8425

リザ・ファッショ・サークル

「リザ」ファッショ・サークルへ
ご入会なさいませんか

あなたとリザをつなぐ「リザ」ファッショ
ンサークルにご加入の方には数々の特典
がございます。詳しくは各店のコー
ディネーターにおたずねください。

東京 / 渋谷パルコ (3階) ☎ 03(476)5369

東京 / 松坂屋銀座店 (3階) ☎ 03(572)1111

東京 / 銀座 ピジョン ☎ 03(571)6317

札幌 / パルコ (3階) ☎ 011(214)2210

1976 / 第6回 / 主催 / 神戸市民祭協会



神戸まつり 5月14日金 15日土 16日日

神戸まつりでサンバを踊ろう！青空の下で唄って叩いて踊るのだ！

神戸まつりサンバメイツ募集中！

★ 神戸まつりで若もののエネルギーをサンバ
で愉快に元気にいきいきと。パレード参加も。

■ お問合せ / 神戸市青少年課 ☎ 078(331) 8181

月刊 神戸っ子 ☎ 078(331) 2246



春だから。あなたは、公園で恋に落ちる。

**FASHION
PARK**

ここは、
春のファッション咲き乱れる
女の公園。
そのどれか一つを身につけて
鏡の前に立てば、
そこには、初めて出会うあなた。
「あ」と小さく声をあげて
あなたは、あなた自身と恋に
落ちるのです。
ファッション・パークは、
恋に落ちる公園。

神戸・三宮
センター・プラザ・3F

やわらかな陽射しに洗礼を受ける…
かろやかなファッションの季節



毛皮・婦人服・真珠・貴金属

サンチカラディスタウン

さんちカラディスタウン／神戸市生田区三宮町1丁目1 ☎神戸(078)391-3886
本社／神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル2階 ☎神戸(078)341-8041





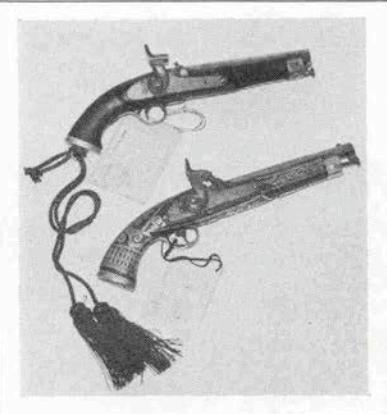
文化の創造につながる 県域放送をめざして

滝井 俊雄
^NHK神戸放送局長

☆私の意見

「くらしの中のNHK」といえば、大変おこがましいい分に聞こえますが、今日では、放送は国民の日常生活の中にすっかりとけ込んで、いろんな意味でなくてはならない存在となっていることは事実である。もつとも、NHKだけの力で今日の放送界発展の姿があるとは決して考えていないし、むしろ民放との良い意味での競合あつての結果であると信じている。しかし、ラジオで始まつた放送界が半世紀を経た今日、技術面においても、又内容においても放送開始当時と比べ、目をみはる発展と普及をみていることは歴史の中で明白である。又それぞれの時代の中で果してきた放送の役割りにも、それなりの意義は充分にあったと考える。が、問題は放送界としてこれから先将来に向って、多様化する視聴者の要望と期待にどのように応えていくべきか、ということだと思う。特に県域ローカル局として如何にあるべきか、すなわち真に地域に密着した放送サービスとは何か、このことを改めて追及し将来への道を確認すべき時機にこそあると考えたい。特に県内事情を考えるとき、阪神間の過密都市圏と、過疎条件にある地方圏とでは、自づと立地条件が異なることはいうまでもない。そうした背景と条件の中で、地域に相応したサービスとなると、單にローカルサービスの一語だけですまされないものがあり、求められる内容が異なることを認識しなければならないということである。ましてや表面的な情報の提供だけに終つてはならない。送りっぱなしの放送であつてはならない。しかもその情報の内容が県民の日常生活に役立つものとして意義あるものでなくてはならない、と考えるならば、県民の文化生活を豊かにするという目標だけにとどまらず、我々の放送が県民、市民の意識の中から文化を育て、さらに発展させる原動力となるまでに貢献してこそ理想であると考える。その意味からも県、市の文化行政と相まって我々の放送が県民文化の創造につながる位置づけとならんことを心から願つているものである。

刀劍 古美術 書画 骨董



管打式短銃 一丁 ￥250,000

鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

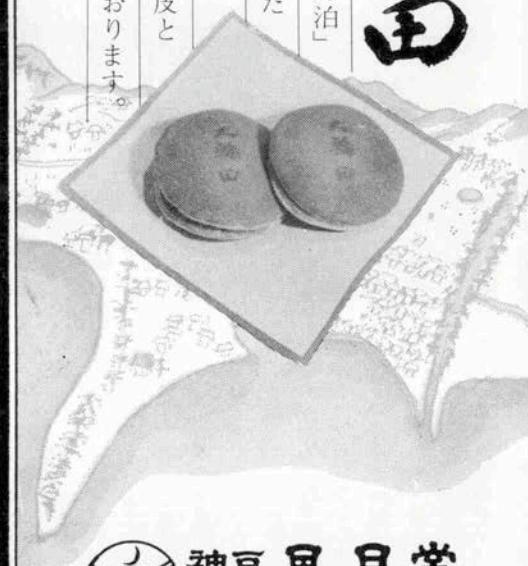
刀 古美術 剣術董
元町美術

〒650

TEL078-351-0081

「神戸」の古名「大輪田の泊」
にちなんで名付けられた
大きな円形焼菓子。
ふっくらと焼上った外皮と
つぶ餡がよく調和しております。

大輪田



神戸月堂

神戸市生田区元町通3丁目
ゴーフル
391-2412・321-5555

隨想

第5回ブルーメール賞受賞者による



ふりかえって

齊藤 智
△現代美術△

神戸に住みついてもう九年になります。九年間といえばもう大な時間のはずです。いろいろなことがあつたはずですが、僕にはそういったことをふりかえるのがどうも苦手で星は古道具屋をうろうろ、夕方になるとスタンドで深酒、時には女性とのめぐりあい、そんなグータラのきまりきった繰り返ししか思いおこせないので。立っているよりは坐っている方が、坐っているだけではなくて酔っている方が、酔っているだけでなくして……。といえば少々オ

バーですが、それでも古道具屋から古道具屋へとこまめに歩いたあ頃のことを思いだすのです。

須磨の小さな古道具屋と仲良しになつたのがきっかけでしたが、茶わんとかドンブリを集めているうちにずるずる……。というのは年せいでしょうか、あるいは土地柄のためでしょうか。

小壺をみつけ自慢げに酒場などで見せびらかして、あんたのそれは女の代用品だなどとひやかされたりしたその頃です。それとあんたの仕事とどういう関係があるの



写真「無題」/齊藤 智 (1976)

だと聞かれて、そういうわけで自分が考えたりもしたのですが、何かの代用品だとしたら、別に考え方つづることでもなしなどと思つたりしていたわけです。

ただものにひかれていくということは自分がうすめられていくような、そのものはだの内側にうもれていくような、そんな快感があったのだと思います。一〇〇年前の醤油注ぎをなでますのに飲み終った牛乳ビンには目をくれないのはただデザインの時代性の違いとか稀少価値だけではなくて、ありえない時間をこえた空間性を思われるためでしようか。それが逆に時間のかたまりにも見えたりするわけです。いややそんなのが今すこしおかしいのです。そういうかかわりのなかにほんとの土地とのふれあいがあると思いまし、言葉にならないそれらのじわいは言葉にしたくない僕の仕事との見えない糸でつながつてたら、そこにも似かよつたところがあるかもしれません。

僕が単純なものにひかれ憧れているということに気がついたとしたら、ゲータラバンザイです。とい

えば少々カッコイイのですが、やはり僕の淋しがりやゆえに酒を飲み古道具をあさつたといった方がもっとさわやかかもしれません。

海のように平明に山のように力強くなどとさらにカッコよくいってしまえば、この土地柄は僕にとってのあこがれの茶わんやドンブリかもしません。

山のふもとの勤め先から百万ドルの夜景のなかを無事くぐりぬければ、わが寝ぐらは波打ちぎわです。さて、この辺でシャコでもむきながら一杯やろうかな……。

「えーお答えいたします。たしか明治四十二年でございます。」「明治の中ごろ、政府は民間鉄道の買い上げを進めた。なんでそうしたか、わかるかね二十面相。」「えー、記憶にございません。」「お前、そんな言い方どこで覚えたんや。」「学校から帰ってきて、お母さんとテレビ見とつてん。」

実に愉快な視聴覚教育である。突如私は、自分の四年生当時をまるでタイム・トンネルをくぐったように思い出した。

◇

仕事で、午後五時から六時間に中央郵便局へ行くことが多い。六番の窓口は、書留郵便を受け付けていて、この時間帯は、栄町を中心とした会社の郵便物がドサツと持ち込まれて混雑する。五十払いの日は特に混み、月末には、いく人かの中年から初老の人たちの行列もできる。ヘルメット、酒の匂い、地下足袋、わた入

二月十七日、夕飯のあとで、長男は、明日、社会のテストがあるから、教科書やドリルをみながらクイズを出してくれ、といいだし



合わせ鏡に 写した時間

三宅 武

（詩人）

日燃けした男たちは、筋肉質で背はあまり高くない。現金封筒で送金する。順番を待っていると、局員との会話がきこえてくる。

「おいくら入ってますか。」

「十万円。」

「おいくら入ってますか。」

「七万円。」

みるともなく封書の宛名が目に入る。雪の深い県外の穀倉地帯。局員に告げる送金額が、十万元を越える人に、この三年間、ついぞお目にかかるなかつた。



神戸市と境を接するあたり、ドーナツ化の更に外側の地域。片側通行の、工事用信号機で待つて、手拭いを頭にかぶつた、農家の主婦らしい人が運転する軽自動車に数台すれちがつた。土ぼこりが、もうもうと立ちこめていて、運転席からひよいと目をやると、あぶないから入ってはいけませんの貼紙がある崩れかけた農家があつて、銀色のプレートが軒下にうちつけられていた。ギョツとした。酸化してボロボロになつていてるが、文字だけは「出征」とはつきり読める。

そうだった。「奉公」というのもあつた。なかでも「忠烈無窮」だけは金文字だった記憶がある。

長男は、『およげタイヤキ君』を

全部覚えたらしい。彼と同じ年頃……親父は何を歌つてたか『腰の軍刀にすがりつき』あれもフォークソングかも知れん。あの頃は敵機に追いまわされ、逃げまわつた。今度は追いつめる番にまわりたい。明智探偵は現代の少年の胸をもおどらせていく。出てこい名探偵、二十面相の仮面を……。

外にあるボーリング航空機の工場だろ。当節は不景気のおりをくつて、生産量はかつての数分の一に低下しているらしいが、人口でいうと周辺地域を入れても神戸市に半分くらいだから、街の人影も目立つてすくない。

シアトルの オーチストラ

小石忠男

△音楽評論家



一月の下旬にアメリカ西部の都市シトルへ出かけた。出発の前にはめっぽう寒いときがされてかなり心配したが、着いてみるとさほどでもなく、神戸にいるのと同じ服装で街を歩いた。ここはわが国との貿易やアラスカ漁業の基地として特異な風物を誇っている。たとえば港の近くにはわが国から輸出された新品の自動車が、本当

に数えきれないほど並んでおり、漁船のたまりがある。ホテルにアラスカ物産を売る店もある。しかし神戸の製鋼所や造船所に匹敵するシアトルの大企業といえば、郊外にあるボーリング航空機の工場だろ。当節は不景気のおりをくつて、生産量はかつての数分の一に低下しているらしいが、人口でいうと周辺地域を入れても神戸市に半分くらいだから、街の人影も目立つてすくない。

ところがこのシアトルにはりっぱな文化センターがあり、収容力三千人のコンサート・ホール兼オペラ・ハウスがある。それなら神戸にも文化ホールや国際会館があるではないかと思う人もあろうが、シアトルのオペラ・ハウスには、そこをホームグラウンドとするシアトル交響楽団(一九〇三年創立)とシアトル・オペラ・アソシエーションが活動している。どちらも定期的に毎月数回の公演を行つており交響楽団はアメリカでも著名な指揮者ミルトン・ケイティムスを常任として実に意欲的な活動ぶりである。オペラのほうも負けてはいない。昨年、上演に四夜もかかるワーグナーの楽劇「ニーベルングの指環」のアメリカ初演を行つたのは、シアトル・オペラである。それもドイツ語のオリジナルと英語訳の両方を上演するとい

う大胆さである。それが好評で、今年も再演されるという。

わが神戸にはこのシアトルの倍の人口がある。音楽会場も劣つてない。ところがオペラ団はおろかオーケストラもない。これでは音楽文化の向上は望めないということ、私はかつて神戸市政専門委員会でその必要性を力説し、プロのオーケストラを組織すること並んで、その土壤づくりのためにも市がアマチュアの青少年オーケストラを育成することを要望した。残念ながら現在、そのどちらも実現されていない。いや、その後も郷土振興調査会の手によってオーケストラに関する調査が行われ、今年の一月にその報告書が完成したが、そこでは郷土文化を育てるオーケストラのアウトラインが、多角的に詳述されている。オーケストラが神戸に必要だという理由が述べられていることはいうまでもない。しかしそれが実現しないのは、結局は財源の問題であるという結論なのだ。

このような神戸から眺めると、シアトルは夢のよな都会である。アメリカでもかなりすぐれたオーケストラがあるばかりか、オペラ団まで活躍している。すると、神戸はシアトルよりも、そんなに経済力が劣っているのだろうか。そうとは思えない。交響楽団

ひとつの運営資金はその気があれば出るのではないか。

この神戸とシアトルは、来年には“姉妹都市”提携二十年を迎える。

思いのまま

花柳吉叟
（邦舞家）



い思い出が走馬燈のように想い出されます。師匠は開放的で理解のある方でしたので、何でも新しい事をやらせていただけた状態でした。先輩方の新作の時など、色々な役をさせていただいたことが良い勉強で私の血となり肉となりました。邦舞界の人たちだけでなく、七年前には洋舞（今岡頌子さん、上月倫子さん）の方たちとも仕事を一緒にさせていただき、從来の邦舞とは何か異った面を吸収出来、大変うれしく思っています。

未熟者の私ではございますが、構成、演出、振付など一切を一人で試みたく、一昨年、創作「黒い血」を上演致しましたところ、お陰様で評論家の諸先生方にも大変おほめいただき、これからもこのような作品を続けていきたいと存じております。

神戸は山と海とが近く、その美しさは他所から帰つて来た時などたらしく、稽古の時などお弟子さんの真似をしては皆を笑わせたりしていました。母は私にとつて師匠であり、先輩であり、芸の話が遠慮なく話し合える友人でありますので、母の師である花柳芳睦師（故人）に師事するようになります。

その後、十三才の時に内弟子として本格的に修業に入り、思えばその間（七年程）はつらい、厳しく、またその反面、友達との樂しかった。そうとは思えない。交響楽団

なんてきれいな…はる



顯微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123

きものと細貨

あんぐら屋



神戸
本
さん
ちか
店

本部・仕入部
神戸市東灘区青木五丁目一五七一九
市街地改造により工事中
昭和五十二年未完成予定
電話〇七八一四五二一五二九〇(代)

神戸市生田区三宮町一丁目一七〇〇

電話〇七八一三三三一七〇〇

電話〇七八一三三三一七〇〇